

中芸高だより

平成25年度
第6号
(奇数月発行)



平成二十五年度中芸高校卒業式

三月一日(土)、平成二十五年度の卒業式が挙行され、二十二名の生徒が巣立っていききました。

式では、ホーム主任に名前を呼ばれた生徒が一人ひとり登壇し、学校長より卒業証書を授与されました。続く式辞では、『前を見る力』『振り返る力』『今を楽しむ力』の三つの力で、力強く一步を踏み出して欲しい」との激励の言葉が贈られました。

その後、生徒会長の近藤君が、三年生から学んだ「仲間を思いやることの大切さ」を胸に、伝統を受け継ぐ覚悟を送辞にて述べ、卒業生の川口さんは、高校生活を共に過ごした方々(先生、友人、家族、後輩)に、それぞれ心から「ありがとう」の感謝の思いを伝えました。

式終了後の生徒会主催の送会では、スライド上映が行われ、三年間の思い出を懐かしく振り返りました。くす球から現れた、後輩からのメッセージは、「目標に向かって困難にひるまず勇ましく進んで欲しい」との思いを込めて『勇往邁進』。教室では、一・二年生と共に最後のホームを過ごし、学び舎を後にしました。

御出席をいただきました来賓の方々に、この場を借りて、御礼申し上げます。また、この日を待ち望まれていた、保護者の皆様、本当におめでとうございました。新しい未来に向かって、力強く歩み始めた卒業生たちの今後の活躍に、心から声援を送りたいと思います。



進路ガイダンス

三月四日(火)、一・二年次生合同の進路ガイダンスが行われました。午前中はハローワーク安芸の正木さん、小野さんによる、講話やコミュニケーション活動、面接練習を実施。就職に向けての心構えや、身につけておくべきこと、基本的なマナー等を指導していただきました。生徒たちは、お互いに評価し合う中で、それぞれの課題を見つけ、進路に向けて今からやるべきことを確認していました。

午後は、専門学校による模擬授業です。公務員、美容、芸術、保育、福祉の五つの分野に分かれ、一時間ずつで二つの分野の授業を受けました。高校の授業とはまた違う、各分野それぞれに特色のある実習などを体験し、進路を考える良い機会となったようです。



大学訪問

進路学習の一環として、前日の右記ガイダンスに続き、翌三月五日(水)には、一・二年次生共に、香川県善通寺市にある四国学院大学を見学しました。進学、就職いづれに関わらず、就職、専門学校、大学という様々な選択肢を実際に体験し、目にしたうえで進路を定められるようにとの企画です。

二時間半ほどで大学に到着し、施設見学、生協食堂の利用、大学の紹介、模擬授業などを体験し、訪問を終えました。広く設備の整った環境に、新鮮な思いを感じながら、体験学習での職業適性検査では、今まで気付かなかった自分の一面を発見した人もいたようです。



非行防止教室

一月十六日(木)、少年サポートセンターの飯田努氏による「インターネットの光と影」と題した講演会を実施しました。

学生たちを取り巻くインターネット環境が、急速に変化し、ネットをめぐるトラブルや、ライン・ゲーム等に代表されるネット依存が大きな問題になっています。携帯端末などが心身に及ぼす影響や、軽い気持ちでネットに載せたことがトラブルや犯罪につながるなど、具体例を挙げながらのお話で、生徒たちは、マナーを守り、安全に使用するための正しい知識の大切さを再確認していました。

ストレスマネジメント(人権LH)

三月六日(木)、スクールカウンセラーの藤田貴也さんを講師に、ソーシャルスキルアップトレーニングを行いました。何がストレスになるかは人によって異なることや、我慢だけでなく色々試してみること、違う捉え方をしてみること、問題を自分と切り離して客観的にみるなど、ストレスとの上手な付き合い方を学んでいました。

放射線等に関する出前授業

同じく三月六日、広島国際大学准教授、林慎一郎氏をお迎えし、放射線に関する授業や実習を行いました。放射能と放射線の違い、放射線の種類や性質などについて学んだ後に、霧箱を使った放射線の観察と、「はかるくん」を用いた放射線測定を校舎内外で実施し、その特性などについて学びました。



プレゼンフェスタ

二月九日(日) 高新RKCホールにおいて、高等学校等の生徒が参加し、「伝えたいことがあるんだ、俺たち革命児」というテーマのもと、九チームがプレゼンテーション力を競い合う大会が開催されました。本校から出場した二年の大古君と三年の三宮君が、見事「革命を起こしたで賞」を受賞。本校では一昨年も審査員特別賞を受賞しており、今後へのプレゼン力継承が期待されます。